

事業コード	H16-建-継-7			区 分	国庫補助・県単独
事業名	国道道路改築事業			部 局 名	建設交通部
事業種別	一次改築(バイパス)			課室班名	道路建設課 国道班(tel)2494
路線名等	一般国道103号			担当課長名	佐藤 紀一
箇所名	大館市 葛原			担当者名	主幹(兼)班長 菅原 善昭
総合計画との関連	政策コード	U	政策名	交流・連携と生活を支える交通基盤の整備	
	施策コード	3	施策名	地域間交流・連携を支える交通ネットワークの整備	
	目標コード	2	施策目標名	県管理国道の整備促進	

1. 事業の概要

事業期間	H11~H22(12年)	総事業費	70億円	国庫補助率	5.5/10		
事業規模	延長L=5,460m 幅員(構成)W=12.0(1.5-3.25-3.25-1.5-2.5)						
事業の立案に至る背景	<p>本路線は青森県青森市を起点とし、秋田県大館市に至る延長117kmの幹線道路であり、秋田県と青森県の県境にある国立公園十和田湖を通過地とする観光道路であるとともに、秋田県北の中心である大館市と鹿角市を結び、地域の産業・経済の交流を図る重要な路線である。</p> <p>当該工区では十二所大橋から沢尻地区の山地北斜面で路面凍結の危険性が大きく、また沢尻地区では人家連担地域であり、地域住民にとって危険な状態が続いていることから当工区の改良整備を計画するものである。</p>						
事業目的	<p>当該区間を整備することにより、安全かつ円滑な交通の確保がなされ、十和田八幡平国立公園などの優良な観光資源を生かした産業、経済、文化などの多方面にわたる県北地域の活性化が期待される。</p> <p>道路の防災対策・危機管理の充実(第1次緊急輸送道路)</p>						
事業費内訳	(単位:千円)						
事業内容		全 体	H15年度迄	H16年度	H17年度	H18年度以降	
	事業費	7,000,000	1,234,000	170,000	160,000	5,436,000	
	経費内訳	工事費	5,249,096	97,737	11,283	113,686	5,026,390
		用補費	956,519	791,838	137,817	26,864	0
		その他	794,385	344,425	20,900	19,450	409,610
	財源内訳	国庫補助	3,850,000	678,700	93,500	88,000	2,989,800
		県債	1,260,000	222,000	30,000	28,000	978,000
その他							
事業内容	1,890,000	333,300	46,500	44,000	1,468,200		
		詳細設計 用地測量 用地補償 改良工	用地補償 橋梁設計 改良工	用地補償 橋梁設計 改良工	改良工 橋梁工 舗装工		
事業推進上の課題	特になし						
上位計画での位置付け	あきた21総合計画における施策「地域間交流・連携を支える交通ネットワークの整備」を支援する事業						
関連プロジェクト等	特になし						
事業を取り巻く情勢の変化	特になし						
事業効果把握の手法及び効果	指標名	死傷事故率の減少		データ等の出典	事故マッチングデータ		
	指標の種類	(成果指標) 業績指標					
	指標式	死傷事故率(件/億台km)		把握の時期	平成16年 7月		
	目標値a	53.0%(秋田県)					
	実績値b	61.0%					
達成率a/b	86.8%						

前回評価結果等	選定または継続	改善	見直し	保留または中止・終了
	指摘事項			
	指摘事項への対応			

2. 所管課の自己評価

観 点	評価の内容（特記事項）	評価点
必 要 性	第1次緊急輸送路であり、他に機能が競合する路線は存在しない。 当該区間は「道路構造上の欠陥箇所数」が3箇所もあり、堆雪幅が狭く歩道もない。また、通学路指定区域であり早急な改良が必要である。	12点
緊 急 性	本路線は、県の主要プロジェクトである「地域間交流・連携を支える交通ネットワークの整備」の計画路線であり、市町村合併の支援道路としての機能も有する。	10点
有 効 性	緊急輸送道路の指定路線であり、災害や救急医療施設のアクセス道路としての活用も見込まれ、防災計画上の重要路線である。	30点
効 率 性	事業の費用便益比は1.5以上であり効率性は高い。 ・総費用の現在価値は 43億円 ・総便益の現在価値は 162億円 計画交通量も5,000台以上となっている。	20点
熟 度	事業の進捗（事業費）は、計画延長の見直し等により、当初計画より事業費が増大し、160%となっている。 用地買収面積は、H16見込みで96%となっている。	15点
判 定	ランク（ ○ ） 「有効性」が特に高い点数となっており、県の「地域間交流・連携を支える交通ネットワークの整備」として位置づけられており、整備後の有効性も高いことから引き続き実施すべきである。	87点
総合評価	<p>継続 改善して継続 見直し 中止 終了</p> <p>事業継続は妥当である</p>	

3. 評価結果の当該事業への反映状況等（対応方針）

当該事業の施工にあたっては、整備計画を踏まえ、着実に推進するとともに引き続きコスト縮減に留意する。

4. 公共事業評価専門委員会意見

県の評価及び対応方針を可とする。

別表7 (20)

公共事業箇所評価基準

評価種別 新規箇所 (継続箇所) 事業コード (H16-建-継-7) 箇所名 (大館市 葛原)

適用事業名 道路改築事業(地域間交流・連携促進)

1. 評価内訳

観点	評価項目	細別	評価基準	配点	評価点	摘要
必要性	道路の現状の問題					
	道路構造上の欠陥箇所数 ・車道幅員 < 5.5m ・最小半径 < 100m ・最急勾配 > 5% ・冬期堆雪巾なし	3箇所以上	3	8	8	2次改築事業については該当しない。
		2箇所	2	6		
		1箇所	1	4		
		0箇所	0	0		
	道路環境上の欠陥該当項目 ・現道の混雑度 1.0 ・現道の旅行速度 30km/h ・現道の事故率 50件 ・通学路指定で歩道なし ・重大交通事故が発生	5件該当	5	7	4	2次改築は配点15点 2次改築は配点12点 2次改築は配点10点 2次改築は配点8点 2次改築は配点4点
		4件該当	4	6		
		3件該当	3	5		
		2件該当	2	4		
		1件該当	1	2		
該当項目なし		0	0			
計			15	12		
緊急性	道路をとりまく環境等					
	関連事業の有無 ・県の主要プロジェクト ・地域振興プロジェクト ・ほ場整備等の他事業	あり	5	5	5	
		なし	0	0		
	市町村合併支援道路	位置づけあり	5	5	5	
		位置づけなし	0	0		
特有の課題の有無 老朽橋、災害危険箇所、 冬期通行不能区間等	あり	5	5	0		
	なし	0	0			
計			15	10		
有効性	道路の位置づけ					
	緊急輸送路	第1次輸送路	10	10		
		第2次輸送路	8			
		第3次輸送路	6			
		指定なし	0			
	県内90分交通体系、全国1日 交通圏等に関連	あり	10	10	10	
		なし	0	0		
社会変化による事業の必要性	必要性が高い	10	10	10		
	低下傾向	6				
	必要性が低い	3				
計			30	30		
効率性	事業の投資効果等					
	費用便益比(B/C)	1.5以上	5	5	B/C=3.76	
		1.0以上~1.5未満	3			
		1.0未満	0			
	計画交通量	5,000台/日以上	5	5		
		1,000台/日以上~5,000台日/未済	3			
		1,000台/日未満	0			
	コスト縮減	あり	5	5		
なし		0				
事業中止による影響	既投資額の損失大	5	5	etc 大規模バイパス etc 部分的ミニバイパス etc 現道拡幅		
	既投資額の部分的損失	4				
	既投資額の損失が少ない	3				
計			20	20		
熟度	事業の進捗進捗状況					
	事業の進捗(事業費)	8割以上完了	10	5		
		5割以上完了	8			
		1割以上完了	5			
		1割未満	2			
	用地買収の進捗(面積)	8割以上完了	10	10		
		5割以上完了	8			
		1割以上完了	5			
1割未満		2				
未着手		0				
計			20	15		
合計			100	87		

2. 判定

ランク	判定内容	配点	合計点	摘要
	優先度がかなり高い	80点以上	87	
	優先度が高い	60点以上~80点未満		
	優先度が低い	60点未満		